

デマゴーグ ゆくえ  
—風聞煽動と町政の行方—

# 風の 新の

## 第十四章

まほろば主人  
宮下周平



画像出典：毎日新聞より <https://mainichi.jp/>



2023年8月8日付け北海道新聞より

一、再エネ議員・秋本議員、風車で収賄

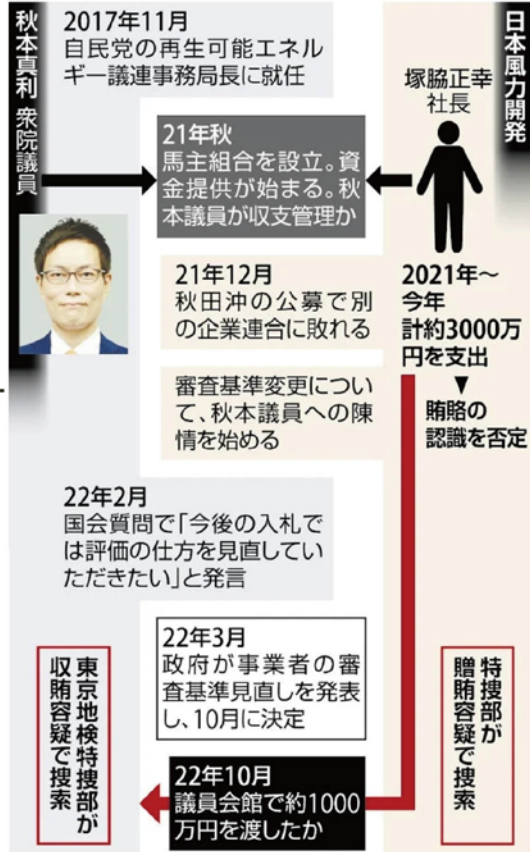
仁木町議選が終わった直後の8月4日、日本中に激震が走った。

【秋本真利衆院議員の関係先を家宅搜索 洋上風力巡り収賄の疑い】

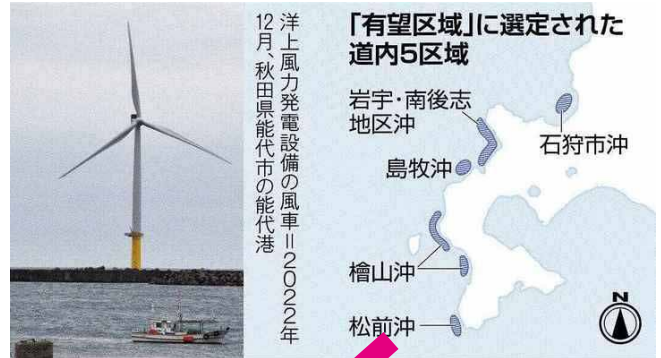
政府が導入拡大を進める洋上風力発電を巡り、風力発電会社「日本風力開発」（東京都千代田区）側が、自民党の国会議員側に資金を提供したとされる疑惑で、東京地検特捜部は4日、外務政務官の秋本真利衆院議員（47）と比例南関東、当選4回への関係先に家宅搜索に入った。同社の社長から約3000万円の提供を受けた疑いがあるとされ、収賄容疑とみられる。

### 洋上風力発電事業を巡る事件の経緯

(関係者への取材に基づく)



画像出典：読売新聞より <https://www.yomiuri.co.jp/>



区域	事業者	出力
石狩市沖	日本風力開発	300万キロワット
	関西電力	178万5千キロワット
	石狩湾洋上風力発電合同会社	133万キロワット(石狩湾沖) 103万2千キロワット(石狩市と小樽市の沖合)
	コスモエコパワー	100万キロワット
	シーアイ北海道合同会社	100万キロワット
	丸紅	100万キロワット
	JERA	52万キロワット
	グリーンパワーインベストメント	96万キロワット
	合同会社グリーンパワー石狩	9万9990キロワット

画像出典：北海道新聞より <https://www.hokkaido-np.co.jp/>



8月12日付け 朝日新聞より

その後11日、「日本風力開発」(ベインキャピタル(外資ファンド)日本法人(ポストン)の塚脇正幸社長(64)が一転して検察側の主張を受け入れ、贈賄を自白した。その総額6000万円とも見られる。

**二、再エネ議連ネットワーク**

地検特捜部の狙いは、ここにはない。トカゲのしっぽ切りでは終

秋本議員は、「再生可能エネルギー普及拡大議員連盟」事務局長だった。石狩湾にも、彼の息がかかった300万kWの洋上風力計画がある。当然、不透明である。

### 首都圏選出の再生エネ議連役員

役職	名前	衆参・選挙区
顧問	甘利 明	衆 神奈川13区
	河野 太郎	衆 神奈川15区
	菅 義偉	衆 神奈川2区
	山本 一太	参 群馬
会長	柴山 昌彦	衆 埼玉8区
副会長	桜田 義孝	衆 千葉8区
	山口 泰明	衆 埼玉10区
幹事長	平 将明	衆 東京4区
幹事長代行	牧原 秀樹	衆 比例北関東
副幹事長	赤間 二郎	衆 神奈川14区
	小林 鷹之	衆 千葉2区
事務局長	秋本 真利	衆 千葉9区
事務局長代行	牧島 かれん	衆 神奈川17区

画像出典：東京新聞より <https://www.tokyo-np.co.jp/>

再エネ議連は、自民党派で、約100人。その孫・子の推進派地方議員にも紐付けされ、捜査リストは埋まっている。柴山昌彦会長はじめ顧問の面々、戦々恐々たる日々だ。殊に、「俺と一緒に働こう」と誘われた河野太郎大臣の右腕、最側近であった秋本議員。「再エネを主力電源とできるようにしていくのが政治の仕事だ」と薫陶を授け、

横の再エネ議連議員の一蓮托生。縦の本命、黒幕への狙いは、既に定まっている。内部告発の情報は確信的で、今まさに再エネ疑獄事件の幕開けである。

わからない。





2023年8月5日付け読売新聞より

「再エネ推  
進・風車  
賛成！」を  
声高に挙げ  
る前に、地  
検の眼は全  
国津々浦々



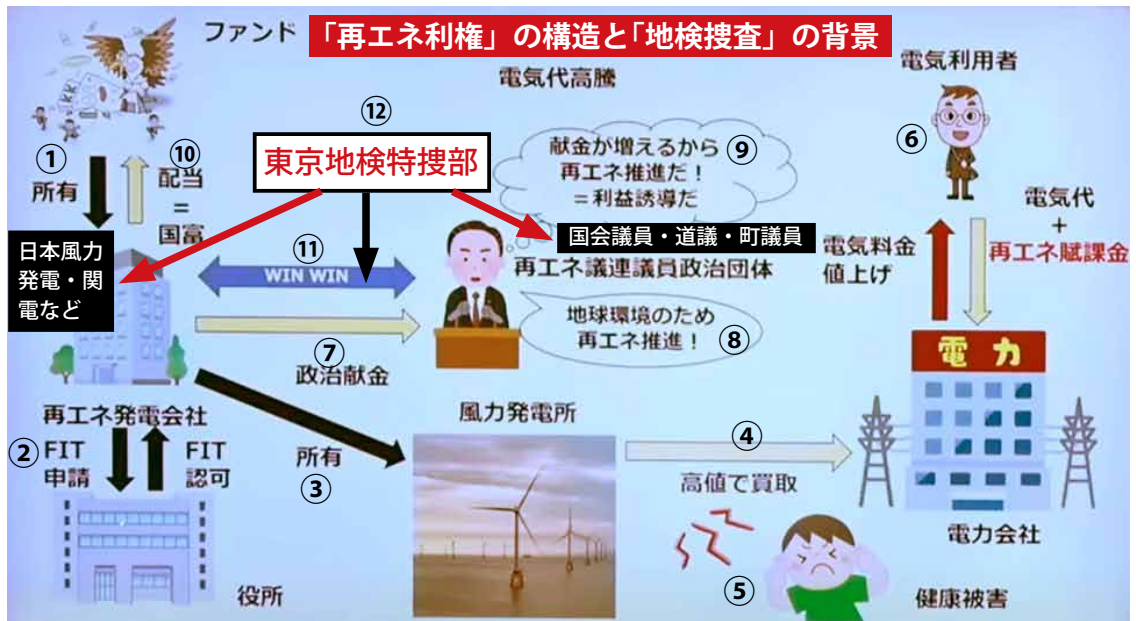
画像出典：秋本議員のX（旧ツイッター）より  
[https://twitter.com/akimoto\\_chiba9](https://twitter.com/akimoto_chiba9)

その蜜月ぶりに何の関りも無いはずはない。明々白々たる利権の介在。ソーラーの中国会社も、ワケチンの虚偽説明も、マイナンバーの不手際も、再エネ構造と瓜二つなのだ。

に畑々として射っている。

## 三、「再エネ利権」の構造と闇

- ① 外資の禿鷹ファンドが再エネ発電会社を所有。
- ② 役所にFIT申請し、FIT許可を得る。
- ③ 風車発電所を設立し所有する。
- ④ 電力会社は高値で電氣を買取る。
- ⑤ 付近の住民は「風車病」の健康被害に遭う。
- ⑥ 電氣料金を値上げし、電氣利用者は、電氣代＋再エネ賦課金を払わされる。
- ⑦ 再エネ発電会社（「日本風力発電」など）は、再エネ議連議員政治団体（別表の議員と「秋本議員」など）に政治献金する。



画像出典：文化人放送局「自民・秋本氏に不透明資金か？／風力発電＆再エネ議連にまつわる利権の闇を平井宏治氏が徹底解説②【The Q&A】8/4」より <https://www.youtube.com/watch?v=MDG8MeSw5I>（下図も）

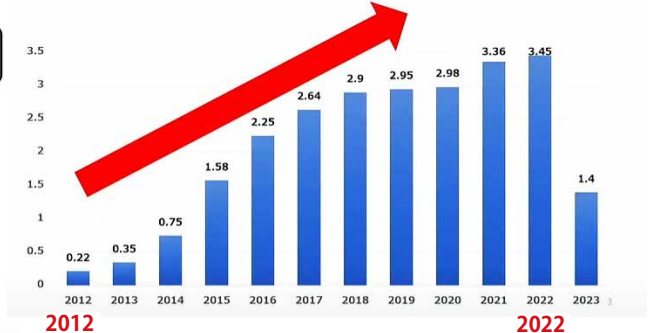
## 再エネ賦課金とは

$$\text{電氣料金} + \text{再エネ賦課金} = \text{電力会社への支払い}$$

自身で使用した電氣 (kWh) × 1.40円/kWh (2023年)

- ・強制徴収だが、知らずに払っている人も多い
- ・特定業者への贈与
- ・再エネ利権の原資

## 再エネ賦課金の推移（単位：円）



⑨ 献金が増えるから「再エネ増進だ！」と利益誘導して電気代は高騰する。

⑩ 再エネ発電会社は利益を外資に配当して、中国などは国富となる。

⑪ 再エネ発電会社と再エネ議連はwinwinの関係。そこは、国民不在。

⑫ その両者に、東京地検特捜部が捜査に入った。

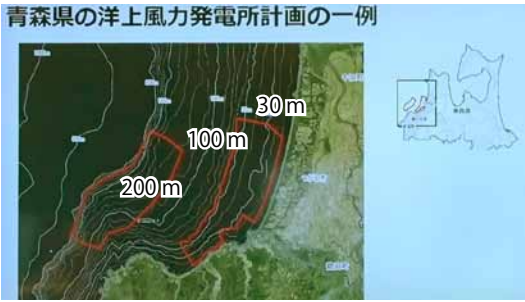
この特定業者の贈与も、再エネ利権の原資も、みな国民が払っている「再エネ賦課金」なのだ。みな知らずに支払われている。

それも、10年前の15倍も。

さらに、今回の洋上風力推進は、陸上が住民の反対にあつて形勢が悪くなり、海上にシフトして来た。だが、ここに大きな問題がある。

英国など欧州では、大陸棚が拡がり水深が20〜40mの浅瀬に、100〜300kmの遠方に離して設置して、沿岸部の住民の健康被害を考慮している。

だが、日本では海底が急峻な

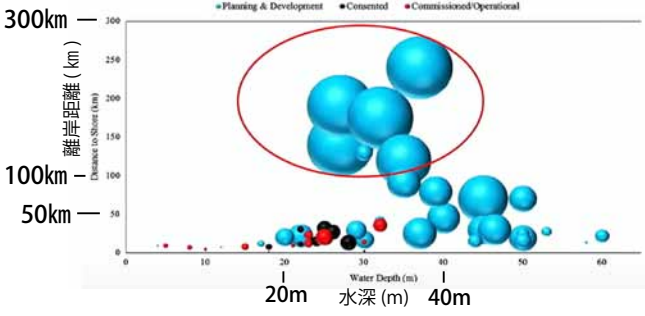


青森県の洋上風力発電所計画の一例  
画像出典：文化人放送局【The Q&A】8/4より（下図も）



め、住宅地に近い海岸線や港湾の20m〜3km沖に着床式で設置している、さらに深海部は、浮体式の鉄ロープで繋いでいる。これは地震津波大国、日本では一瞬のうちに引き千切られ、海岸民家に打ち寄せる高いリスクを背負っているのだ。それでも、決行する意図は何か。それは、利権獲得以外の何ものでもない。

イギリスの洋上風力を再考する  
Review of offshore wind power development in the United Kingdom  
May 2013



再エネ賦課金の2.5〜3兆円もの税金を事業者に払い、政治献金でお返しを貰う、この古典的利権。ソーラーも風車も地熱も、みな同じ仕組み、同じスキル。上が儲かり、下が苦しむ。この旨味に、議員は嵌り、裏工作・裏取引に歯止めが利かなくなっているのだ。

ましてや、小泉進次郎氏も秋本氏も、利権事業者の為に、審査基準の変更を求める陳情を繰り返した経緯。そして、それが罷り通る国会・議会。結局は、私利私欲、保身のため、再エネは格好の金蔓なのだ。別事業所「レノバ株」へ利益誘導した舞台も国会。今回の賄賂受け渡しも衆議院会館。国会は魔窟、金財の巢城になってしまった。

そこに、国民は介在していない

い。不在のまま。今期、大手電力会社8社がV字回復の最高益8159億円。中に9・8倍も黒字の中部電力がある。国民が、重税と物価高に喘ぐ中に、何故高騰する電気料金の値上げが許されるのか。

8月4日付け読売新聞より

この酷い矛盾を、国民は、何故憤らないのか。指摘しないのか。何故、黙っているのか。

しかし、風車推進の再エネ議員に投票しては、文句は言えない。電気料金の値上げも「よし」と自ら宣言したと同じである。今さら、訴える資格がないと言えはばない。

しかし、多くの国民は真相を知らずに、投票しているのだ。



# 風 新の リ

これはもう、冗談  
を通り越している。

## 四、「あいつらは、統一教会！」

7月30日、仁木町議選。  
結果、反風車派2名落選。9名  
当選の内、反対派3名、賛成派6名。  
一年間の反風車運動も虚しく、  
再エネ推進派が勢力を伸ばした。

「あいつらは、統一教会！」  
この一言必殺は、当たった。  
この殺し文句には、説明は要ら  
ない。

このレッテル貼り以上の印象操  
作はないだろう。  
この流言飛語・風聞煽動が、町  
議選中の仁木の町中を駆け巡った。  
しかし、これは度が過ぎた。

数か月前、初対面の仁木町会議  
員に、  
「えっ、あなた統一教会でないの」  
と、逆に驚かれ、隣の余市では、  
選挙後すぐに、余市の元議員から、  
「仁木では、まほろばは統一教会  
で、通っているよ」

そもそも、統一教会ならば、自  
民党会派。

自民党ならば、多くが再エネ推  
進派、風車賛成だ。

この「風車反対の会」が、何故、「統  
一教会」でなければならぬのだ。  
一目瞭然、子供でも分かる自明の  
理ではないか。

『日本をサタン（悪魔）の国』と  
教える朝鮮系カルト集団「統一教  
会」と、日本の枕詞でもある「ま  
ほろば」と、どう繋がるか、発信  
者や共犯者に証言して戴く。

もう既に、誰が言った、言わな  
いかの次元を超えているだろう。  
誰かが流したが故に定着し、何  
処かに拮げたが故に今がある。こ  
れは、動かせない事実だ。

各々、自らの胸に手を当てて問  
いたい。まほろば封じ込めの数々  
の禁じ手と人は、やがて明らかに  
なろう。

相手を陥れた術策は、「虚偽の  
風説の流布」で、「信用毀損罪」  
及び「業務妨害罪」の刑法233  
条に当たる。さらに誹謗中傷の「侮  
辱罪」にも。（同231条）

反論するなら、正論を以て、堂々  
と渡り合わねばならない。

この根も葉もない風評と言われ  
なき噂の嵐の中に、無垢無心の新

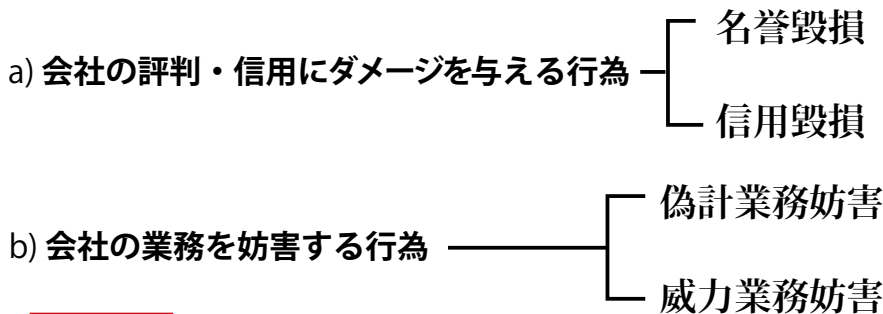
人二人は、闘って散った。だが、  
敗退により、普段隠れている真相  
の覆いが剥がされ、ありありと実  
態が浮かび上がった絶好の機会でも  
あった。



## 刑事上の責任

- ① 「信用毀損罪」
- ② 「偽計業務妨害罪」(刑法233条)

「【虚偽の風説を流布】し、又は【偽計】を用いて、人の【信用を毀損】し、  
又はその【業務を妨害した】者は、三年以下の懲役又は五十万円以下の  
罰金に処する。」



### ③ 「侮辱罪」の厳罰化

2022年7月7日以降、「1年以下の懲役もしくは禁錮、もしくは30万円  
以下の罰金、または拘留もしくは科料」へと改正された(刑法231条)。

## 五、穂積、甲田両氏の健闘

25日の告示日に、ポスターを貼り、27日にチラシで町内に向け初めて名を名乗り、マニフェストを述べた実質のスタート。その時、初めて2人は衆目に接した。それまで何も知らされる場面はなく、事前運動もなかった。(政治団体ではないので、後援会も無い)

そして29日までの僅か3日間での勝負、30日の投票日。実に厳しい。

その2人しての**150票**は、真に彼らの思いに感動・感銘した人々の声だった。地盤も血縁も組織票もない中、よくぞ、この5日間訴えた。

二人の候補は、夫唱婦隨の二人の力だった。二人して、地縁なし、金力なし、経験なし。みな夫婦で考えた



手作り運動だった。統一教会なら、豪華絢爛なる街宣車とプロのウグイス嬢を用意するだろう。

穂積豊仁君は、5日間炎天下の中、朝8時から夜8時まで自転車漕ぎながら、声の限り訴えた。それを支えたのが悠理夫人の叫びだった。「風車の自然破壊、健康被害をSTOPし、仁木の自然と特産物を活かした地域経済の自立を。」

そして、町民一人ひとりが町作りに参加できるよう、開かれた議会、風通しの良い議会を目指します。この豊かな自然を子供たちに手渡ししましょう」  
その合間合間に「仁木の自然を守りたい!」「子どもたちの未来を守りたい!」

と彼は、連呼していった。それは見るものをしる心に刺さった。

一方、甲田貴也君は、大阪から持ってきた造園用の



小型ダンブに手作りの看板とポスターをホチキスで貼り合わせたものだった。選管の説明では、この街宣車やウグイス嬢の経費は、町費から出るので。しかし、この二人は、税金を使つては申し訳ないと、自腹で請求せず、選挙の原点到に立ち戻つて、最初から最後まで貫いた。それは、傍目からも涙ぐましいものだった。

夫妻は運転とマイクを代わる代わる変わり、声の有らん限りを、魂の有らん限りを出し尽くした。

和恵さんの声は、夫を支え、町を、国を案ずる思いと愛で張り裂けんばかりだった。



「みなさまの命を脅かす風車建設大反対です。祖先の築いて来た故郷を、我々の世代で失つてはなりません。子供たちへと繋いで行きたい、その一心で立ち上がりました。目の前の問題を見ずして、よりよい町は来ません。目の前の問題を見ずして、子どもたちの明るい未来は守れません。共に、立ち上がりましょう。……」二人の声は、聞く者をして、大空に響き、魂の奥底を揺さぶるものだった。

だから、数は少なくても、その一票の重さは、重くして重たいのだ。何を置いても重たいのだ。



# 風の 新の リ

に、より良き仁  
木町を開いて行  
くかが課題なの

その一票から始まる、その一票から拵がって行く。

二人を一人に絞れば良かったと、人は言う。

しかし、それは結果論で、この二人を出したことは、正解だった。当否の戦略ではない。それを超えた人生哲学なのだ。伝えたいのは町を想う清やかなる純心だった。

この二人を、町民の方々が知ったことは、貴重な縁繋ぎ。だから、寸分も後悔などしていない。

元より、議員になりたいために立候補したのではなかった。町を良くしたいがために、己むに己まらず立ったのだ。「風車を考える会」から、誰も立候補する人がいなかったから立ったのだ。

彼らにとっては、それは名誉職でも、高給取りでもない。あくまでも手段でしかなかった。

これからは、百姓として足元を固め、いかに地元のみなさんと伴



だ。しっかりと未来を見据えて一歩一題、実現していく。

## 六、穂積君が「考える会」の新代表に

会の規約において、一年任期で瀬川代表が降り、穂積君が後を継いだ。瀬川さんの、これまでの尽力は測り知れず、これからはサポート役に回る。深謝するばかりだ。

新代表は、未経験の大任だが、自転車の一漕ぎのように、必ずや人の心に善き波風を立てるであろう。

## 七、マスコミの援護射撃

選挙後、不思議とマスコミによる「風車の会」への記事が連続した。

『北方ジャーナル』による二人への健闘を称え、正義を訴える記事には、仁木以外に道内にも、応援者が多く居ることを知らしめて下さった。ありがたかった。議会の内状報告

は、驚くべき記者の観察眼・洞察力である。

## 風発反対派の新人2人が落選 「移住組」が投じた一石の行方



【本報記者 山田 隆之介】 仁木町議会議員選挙（8月19日）で、風力発電反対派の新人2人が落選した。これにより、移住組が投じた一石の行方が明らかになった。...

『北方ジャーナル』2023年9月号より



『日本農業新聞』2023年8月19日付けより

そしてさらに驚くべき事は、8月19日（土）、「日本農業新聞」の道内版に一枚全面に掲載されたことだ。その朝、道内の数名の農家と酪農家から連絡が入ったほど。記者が真正面から風車問題に取り組み、不偏不倚、どちらにも偏らずに取材。風車の会は無論、役場の林副町長、関西電力、市川弁護士、北海

道電力ネットワーク等々、多方面に亘つての聞き取り調査した上で、読者の判断に任せる編集姿勢の公平・公正さに、寧ろ感銘した。

農家の方々にとつても、今日まで「風車反対」は一部の活動家の戯言くらいにしか映らなかったかもしれない。だが、日本で唯一の農業新聞社が、大枠で取り上げるほどの差し迫った喫緊の社会問題であったことを、再認識されたのではなからうか。

予測される農業被害は、計り知れない。

若し、銀山の稲穂峠側の田畑で、湧き水が断ったら、水質が泥で悪化したら、美味しい米は穫れないばかりか、土砂崩れにより圃場は、壊滅状態になるのだ。嘗て存在しなかった200m級のメガ風車。あの送電線塔の3倍もある巨体。子孫が、その始末が叶わぬ負の遺産を喜ぶか否か、想像されたい。

反対するには反対するなりの根拠と理由がある。

その一端が、毎週毎月町内に流

す数多の風車通信。

瀬川前代表の『一枚通信』は百通に近く。家内の『議会報告』の議事録は、議員の真の姿や思いを伝える。私はこの『風の祈り』15篇を重ねるほど、深入りしてしまつた。そして、最近では、仁木商工会会長が、個人として『津司通信』で自論を展開し、毎日のように執筆される。法科出身らしく、物事の観点が論理的な切り口で、甚だ知的にも興味深い。



## 八、最後に

私たちは、反対のための反対、対立のための対立をしているのではないのです。

「この仁木の自然を守りたい。人々の健康を守りたい」の一念でやらせて頂いています。

それは地元の人にとつて、余計なお世話とすらも思われる。

しかし、企業が利権利益のために、村が、町が騙され、崩壊して行くのが、悔しくて黙って見ていられないのです。そして、今、日本の各地で、同じことが起こっているのです。

単に、気付いた者が先に言っているに過ぎません。しかし、行動するに後先はないのです。

気付いた人の蹶起を待っています。

みな、美しい自然、健やかなる毎日を望まない人はいません。

その行き着くところは月並みですが、平和で幸福な日暮しができればいいと思っています。

それが、生活の場の田畑が荒らされ、健全であるべき身体を痛める「風車」。

みなを不幸に陥れる何物でもないことを、知って頂きたいだけなのです。



息をのむような銀山地区の美しい田園風景 (甲田貴也さん撮影)

仁木町の風力発電を考える会

仁木町大江 1-341-44 代表 穂積豊仁

TEL: 080-1863-1306

【仁木風 HP】 <https://niki-wind.main.jp/>



### 風の祈り—第14章

2023年9月1日発行

発行所：株式会社まほろば

NATURAL & ORGANIC

自然食の店 まほろば

札幌市西区西野5条3丁目1-1

TEL: 011-665-6624 FAX: 011-665-6689

[www.mahoroba-jp.net](http://www.mahoroba-jp.net)

